

Z.ブレジンスキー著「地政学で世界を読む—21世紀のユーラシア覇権ゲーム—」

日経ビジネス文庫 2003年3月1日刊を読む

アメリカと日本

1. アメリカは、日本との緊密な同盟があってはじめて、アジアで大国の地位を追求する中国の動きを取り込み、その野心の暴走を防ぐことができる。この前提がなければ、複雑な三国間協力関係、すなわち世界大国のアメリカ、アジア大国の中国、そして国際社会で主導的役割を担う日本の協力関係を築くことはできない。
2. したがって、近い将来、現在の在日米軍の規模を縮小するのは望ましくない(在韓米軍についても同様である)。しかし、日本の軍事力の地政上の対象範囲や実際の規模を、大幅に拡大させるのも望ましくない。アメリカが軍事力を引き揚げていけば、日本は戦略の方向性を見失って動揺し、大規模な軍備拡張に走るだろう。また、アメリカがこれまで以上の軍事的役割を日本に要求しても、アジア安定の見通しが暗くなるだけだ。大中華圏をアジア地域の安定のなかに取り込むことができなくなり、日本が国際社会で建設的な使命を果たすこともできなくなり、ユーラシア全体に、地政上の安定した多元性を生み出そうという努力も暗礁に乗り上げる。
3. さらに、日本がアジアから世界に視点を移すべきだとするなら、日本に意義ある役割や特別な地位を提供し、日本が国益を十分追求できるようにしなければならない。地域大国への道を進んで世界大国の立場を追求できる中国とはちがひ、日本は地域大国への道を放棄することによって、世界に対する影響力を獲得できる。しかし、だからこそ、日本にとって、アメリカの特別の同盟国として国際社会での使命を果たしていけば、政治的な満足と経済的な利益を得る見通しをもてるようにすることがきわめて重要になる。この目的のために、アメリカは、日米自由貿易協定によって日米共同の経済圏を形成することを検討すべきだろう。これにより、制度の上でも両国の経済的結びつきを強化すれば、アメリカのプレゼンスを東アジアに維持し、日本が国際社会で建設的な貢献をするための地政上の基盤となるだろう。
4. 結論をいえば、アメリカにとって日本は、世界が深く広く協力できる枠組みを構築するとき、もっとも重要な同盟国となる。しかし、中国の地域大国化に対抗することを狙った地域体制のもとでの軍事同盟国として扱ってはならない。日本はアメリカが国際社会で新たな課題に取り組むときの同盟国でなければならない。パワー・ポリティクスという通常分野では、アジアで圧倒的な力をもつ中国が、東アジアでのアメリカの錨として、ユーラシアに勢力均衡を作る

のに役立つ。その意味で、ユーラシア東端の大中華圏は、西端の拡大ヨーロッパに匹敵する。

[コメント]

アメリカ発の世界大不況が到来した今日、日本とアメリカの関係をどのように考えたらよいか。熟読に値する基本文献である。

- 2009年4月3日林明夫記 -